

「茂洋」は、県が誇る名牛「茂勝」と母牛「じざざ」から生まれた牛で、第8回全国和牛能力共進会岐阜県大会(平成14年)に出品されました。今年1～3月の間に食肉処理された産子19頭による産肉能力検定では、脂肪交雑(BMS)が平均値ナンバー7・42と、昨年の5・03を大きく上回り、枝肉重量でも昨年度の全国平均421^gを大きく上回る444・9^gでした。

優良な肉用牛生産を進めるため、全農宮城県本部と県畜産試験場が共同で育種を進めていた黒毛和種の種雄牛「茂洋」がこのほど、県の基幹種雄牛に選ばれました。

BMS・枝肉重量ともに好成績



県の基幹種雄牛に選ばれた「茂洋」

県本部だより

仙台牛のヒーロー誕生

県基幹種雄牛に「茂洋」を選定

宮城県本部

この数値から分かるように、父親譲りの高い脂肪交雑能力と遺伝能力、またこれまで「茂重波」系統の課題であった増体能力をも兼備した「スーパー仙台牛」です。



味が自慢の「スーパー仙台牛」



「茂洋」産子の牛肉をほおばる村井宮城県知事

農家の高齢化が進むなか、「茂洋」誕生という明るい話題を励みにして若い担い手が将来に希望を持って営農に取り組み、元気な農家がたくさん増えるように大いに期待を寄せています。

すでに人工授精用の精液の配布を始めており、現在までに3000本を販売しました。4年後には、「茂洋」産子の牛肉が店頭に並ぶ見通しです。

お披露目会で関係者が太鼓判

4月下旬に開かれた「茂洋号のお披露目会」では、茂洋号を育成した生産者への表彰の後、宮城県知事、消費者団体、生産者、JA関係者が参加し、「茂洋」産子のステーキ、しゃぶしゃぶ、冷しゃぶしゃぶ風サラダ、ローストビーフ、ビーフシチューが振る舞われ、参加者は口々に「肉と脂肪の割合が絶妙」「とろけるような食感」と感嘆の声を上げ、スーパー仙台牛の味に太鼓判を押していました。

県内では、全農と農林中央金庫、共栄火災海上保険㈱の三者で創設した「系統系畜導入資金措置」が、JAG古川管内の肥育牛農家に全国で初めて適用されるなど、畜産の話題に関心が高まっています。



県本部の木村会長から表彰される種雄牛生産者の遠藤お洋さん